

重刊  
著

世繼草摘分

五

112

東 京 圖 書 館			
三	二	五	和
冊	號	架	書
		函	門
			類

014697-001-7

137-112

世繼草摘分

鈴木 重胤/著

1冊

M16

ABB-1136



鈴木重胤原著  
桂譽重注解

# 世經草摘

明治十六年一月出版  
桂氏藏梓

東周  
永春

自

厲

方平

田

序

玉成之道と云はれ本と世と謂ふ  
曰大人は此を以て書し  
何と書しと云はれ如く天地の  
始終を成給ひ主宰給ひ治め候と  
世給ふといふも一可く兼て天皇祖神  
等は大命もて付賜へり是なるとも  
く米は更に出るも有るもあはぬ





と必後世承たりしる心倭漢古々よ  
聞之をまためたる心はしむ  
主の世のまはるる心はしむ  
その子孫おれ必承母の心はしむ  
禁之行の爲業に心をなす  
うらやまの心をなす  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは

おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは  
おれは道乃おれは

桂阿筆

平吉  
道平

神皇  
舊臣

本神の接合

河津神の神を以て地を  
安んずる天孫の神は河津に  
合易に神を以て河津に  
神を以て河津に神を以て  
神を以て河津に神を以て  
神を以て河津に神を以て  
神を以て河津に神を以て  
神を以て河津に神を以て



抄  
卷之八  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

抄  
卷之九  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十



二卷

世継草摘分序

中

り

世

世継草摘分序

世

世継草摘分序

此書の桂の家は先のお後、譽重ぬ

お乃の多むむのお乃の、お乃もた、為り

鈴木重胤ぬ、お著のされ、世継草

すまの、お摘お、お、お、お

賤乃女児童等、耳お、お、お

る、お、お、俗語を、お、お

お、お、お、お、お、お

此稿の存するは凡二十年付の書物なり  
や一紙にふくむべきは今乃世に  
みきはるるにたゞあはれおぼ  
ふしむるは何れも今乃人  
譽を怨むしおぼおぼしはあ  
考の撰をまよきく改めむる  
事おねむしやきくは板お  
彫せらるるをねむるは皆ひ  
ちる

ちるぬしむるは  
いふにめはるるは  
よみくあちまて常よ  
身よおこなむるは  
五常たるといふ  
人とある道よ其  
さらなるる其家  
子に也榮ふと  
えゆる

みまのりつて後のついでに御事  
なごりすかき其由を御事  
まごりけし志を時を

御世の名志をく明らう小治め給ふ七年の  
四月小あたる十日阿まのり五日といふ日

皇大神宮祓宜兼大講義

小池内廣

養正書

少のりつて御事

家父能親也よらるし時門人と来りて後と  
うけのりつて御事  
一を以て御事  
阿らうと様うい御事  
さ様と阿らうと御事  
衆言くその衆天者迄と  
お後とをひと御事  
たのりつて御事  
をく御事

おぼふ阿勢とふお徳のまを〜  
のせ〜  
後〜  
門人の法〜  
ま心結い〜  
末や今さら人れ教〜  
ふ家よま〜  
庭父結うけ〜  
大人〜  
人〜

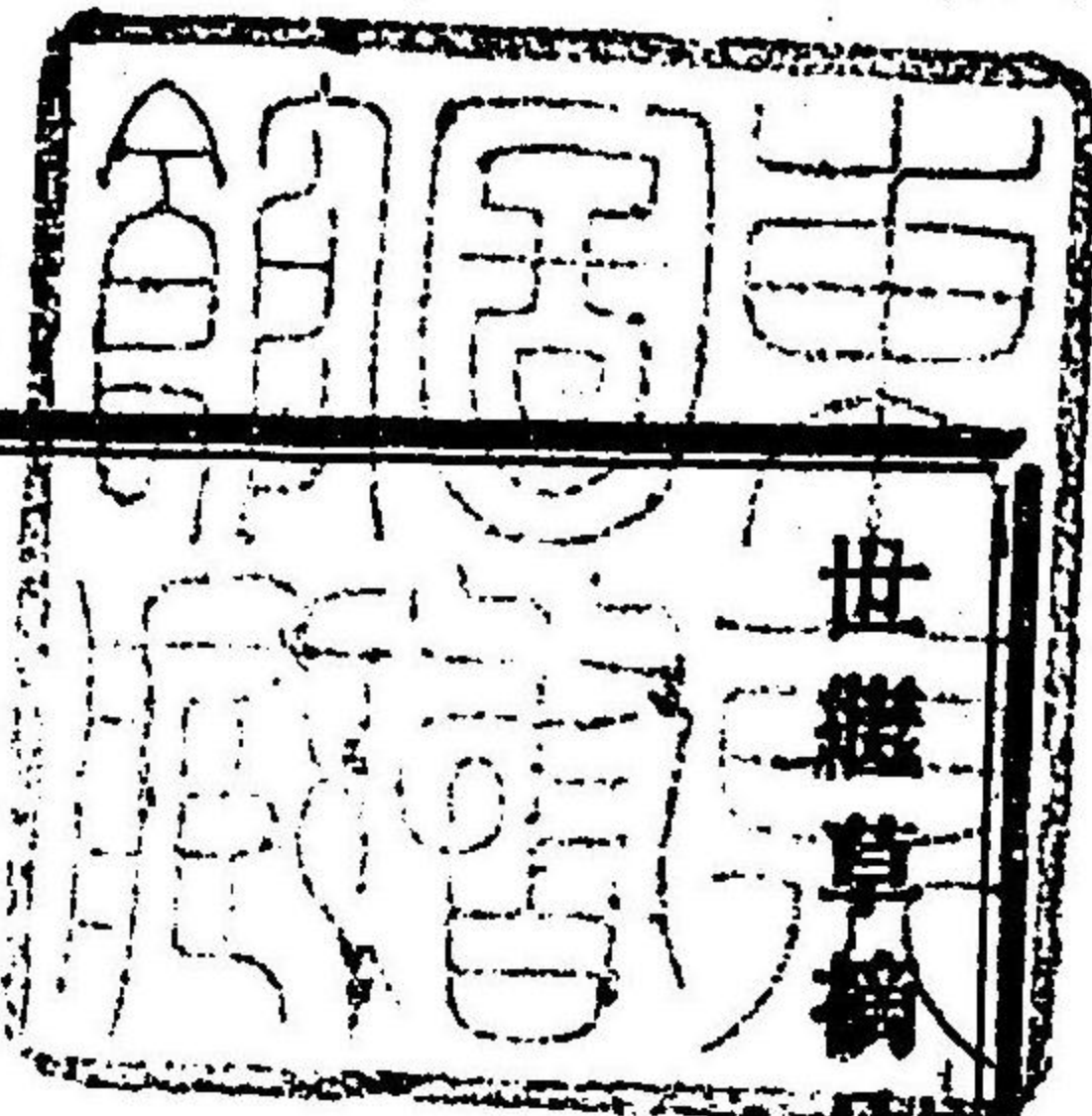
おぼふの道〜  
い作芸現〜  
結〜  
阿勢と徳の〜  
〜と板本〜  
もち世結法〜  
思ひ入〜  
お〜  
〜  
〜  
〜

その家父の所給本堂胤大人此書を  
きり世徳孝といふ古くはやく板本  
と形とて世々一形と通つる書此本文  
形も次より後字より海家世々家父の  
もれせしむるなり原書よりかゝりぬ  
人乃きあよむ徳と書よむ哉  
家父此書より此稿我々の世々一書  
嘉永といふ書徳と一れも免じて其後  
給本大人在因よりけりれる乃き  
討つたれつるよむに稿形通つるよむと見

勢ら世々れとらう海くそ播系ら世々  
書とてよ海とるれはかいつて播系の二  
家も大人よりそ徳と書いぬより一おれ  
世々いぬ書れより海徳と書いぬより一  
よむとらう海く一稿とよむとらう海く  
世々いぬ書れより海徳と書いぬより一

桂巻世徳

世繼草綱分上之卷



鈴木重胤原著  
桂 譽重注解

高天原に事始給ひし皇祖天神は立給ひ定給ひて現御神と天下統御し  
高天原トハ大虚空ノ一也何レノ邊ヲサシテト云ハハ天地ノ成レ  
ル今ニシテハ天ツ國ノアル處也天ツ國トハ天日ヲ云此時ハ未タ  
天地モ出來サル前ナリ○事始トハ過去現在未來古往今來天地間  
ニ有トアラユル事ノ始ニテ何事モ何物モ此ニ漏ヌウチ主トハ天  
津日嗣ノ御事ヲ申スナリ○皇祖天神トハ天御中主神高皇產靈神  
神皇產靈神以上三柱ノ神ヲ申ス此神々ハ天ツ國モ天星モ此地球



ノ元質ヲモ造リ出シ玉ヘル即天地鎔造ノ棟梁ノ神ニオハス也○  
 現御神トハ元來ハ天皇ノ御始祖天ツ國ヨリ天降り玉ヒシ瓊々杵  
 命ヲ奉稱カ本ニテ御代々ノ天皇ヲモ奉稱也現人神ニ申ス俗ニ云  
 ハ、現身神祿ト云フ也○天ノ下トハ異國萬國取總テ天日ノ照ス  
 區大地ノ載スル域ヲ云フニテ此皇國限ノフニアラス此ハ天ツ神  
 等ノ御心トシテ永世不易ノ法則ヲ立定メ玉ヒテ現身ノ神即天皇  
 ニ天下萬國ヲ統治サセ玉フト云義也此ハ日本ユソアレ何ソ外國  
 マテモトアサケリ笑レ人モアラメト其ハ吾 神典ニ就テ了解ス  
 ヘシ次々ニモ且々云ヘリ

掛まぐも甚も可畏き皇御孫命乃御世乃繼々高御座天津日繼と受給ひ  
 持給ひて萬國に敷給ひ行ひ給ふ我が皇神乃大道をいふ

掛まぐも云々ハ詞ニ掛テ云モ甚恐入り口ニ憚ルト云フ也○皇御

孫命ハ前ニモ云ヘル瓊々杵命ヲ奉申也此命ハ天照大御神ノ御孫  
 ニ御在セル故ニ御孫ノ字ヲ含意セルト御代々今ノ天皇ヲモ皇御  
 孫命ト奉申レハ全ク孫ノ字ニ拘ルヘカラス皇眞身命ノ義也トソ  
 ○高御座トハ天照大御神ノ御座ヲ申ス瓊々杵命御天降ノ時天ツ  
 國ニテ天照大御神ノ高御座ヲ分ケテ坐シ奉ラセテ大御神ノ勅玉  
 フニハ此豊葦原水穗國即皇國ノ此國ハ吾御子即汝カ知ヘキ國千  
 代萬世王トマサム地ソ寶祚ノ隆ナルヲハ天地ト共ニ窮リ無ルヘ  
 シ吾カ此天ノ原ニテ聞シメス齋庭ノ穗ヲモ吾御子ニマカセマツ  
 ルソ此天ツ日嗣ヲ萬千秋ノ長五百秋ニ平ケク安ケク知シメシテ  
 事アヤマタス神隨モ天下ヲ知シメセト勅玉ヒテ所謂三種ノ神器  
 ヲ始メ種々ノ神寶ヲ賜ヒ數多ノ供奉神ヲ御サレソヘニテ瓊々杵  
 命ハ此皇國ニ天降り玉ヘリ○天津日嗣トハ御貢物ノフ也調貢物

ナ日々聞シメスハ即大御神ヨリ賜ハセル處也譬ハ塵一本ヨリ始  
テ天下中ノ事物皆大御神ヨリ天皇ヘ下シ置レタル數ニモレヌモ  
ノ也各々面々今日衣食住ノ品ハ天皇ノ聞シメス御余リヲ萬民頂  
戴シテ居ルモノ也然ルチ自己ノ物ト心得ルハ勿体ナキ也倭瓊  
々杵命ヨリ御代々ノ天皇御代初ニハ高御座ト申スニ御坐マシテ  
御規式アリ此即御即位也位ハ坐居ノ義也正一位正二位ナト、申  
スモ此高御坐ヨリワリ出シト云フニテ君臣ノ義此處ヨリ分明セ  
リ又天皇ヲスメロキヒスメラミコトト申奉ルスメハ統ノ義ニテ  
大御神ノ御光リ六合ヲ照徹シ玉フ所ヨリ及シテ天地間ヲ統知メ  
スノ義ナリ六合ヲ照徹シ玉フ大御神ノ勅玉フ天下ハ即天地間ナ  
リ然レハ瓊々杵命ヨリ御代々々ノ天皇又今上皇帝以後幾億萬代  
ノ天皇モ同シク天下悉知シメス御事大御神ノ勅ニ心ヲ深メテ知

得ヘキモノソ又御即位トテモ自然ノ如クニ思フメレト大御神ノ  
大御心ト定玉フ往昔瓊々杵命天ツ國ニテ高御座ニ坐セ奉ラセ  
玉フト同シ御事ナルヲ論ナケンハ此日本ハ天地間ヲ統知シメス  
大君ノ御坐スル御國ナルカ故ニ皇御國ト申ス義也然ルチ諸蕃ノ  
酋長等カ自ラ天子ノ皇帝ノ又中國ヨ中華ヨナト、僭上ノ號アル  
ハ天地神祇ニモ天皇ニモ奉對恐多キナリ○萬國ニ云々前申ス  
如ク天皇ハ天地間ヲ知シメセレハ皇神ノ大道ヲ天地間ノ萬國ニ  
敷行ヒ給フト也○我トハ天地神祇ノ御本國ナル故我ト云レタリ  
此ハ申ハ恐多モ天皇ノ御代々天照大御神ノ御勅命ヲ受持玉ヒテ  
天下萬國ニ敷行ヒ玉フ皇神ノ大道ト云モノハトノ義也  
夫婦夫婦適合適合の感感に依依テ子孫子孫發發蕃蕃息息し生育生育ス皇祖皇祖天神天神よテ受賜受賜はる所  
の此生國此生國足國足國也修修テ理理め固固め成成ル功功立立テ德德と爲爲ル事事か

夫婦遘合ノ一モ皇神等ノ初メ玉フニテ此ハ論モナク子孫ヲ繁榮  
 サセ各家職ヲ繼スヘキ爲也其家職ハ即チ皇祖天神ヨリ授玉フ所  
 也其ヲ受賜リテ守リ勤ルソ修理固成ノ功ニテ其功德即國ノ爲也  
 國ノ爲ハ即天皇ニ奉仕ニテ畢竟ノ處生國ヲ足國ト修理固成ノ功  
 ニナルトノ義也○生國足國トハ此大地球ヲ云地球各其國魂神マ  
 シ又地球晝夜運動止ムヲナク即生活シアル義ヨリ生國ト稱ス其  
 國ヲ修理固成スルヲ足國ト云満足ノ義也天皇祖神等ノ造リ玉ヒ  
 シ後モ幾千カ足國ト成行ケン一衆人ノ知ル處也地覆海溢ナトニ  
 テ山崩レ海埋ルナト顯界ニコソハ變事ナレ神ノ御所爲ニテ足國  
 ト成シ玉フ處數々アリ人爲ニテモ開發地ナトハ即足國トセル義  
 也祝詞ニ狹キ國ハ廣ク峻キ國ハ平ケクトアル即足國ノ義ニテ如  
 此足國ニナスニハ生國ノ御幸ヘナクテハ出來ヌ也天地間萬國

四

ト國多クアレト地球ノ全体ニシテハ大海三山一平地ト云説アレ  
 ハ何ホト足國トナリテモ國カ澤山過ルト云ワケハナシ故ニ此國  
 ナ足國トスル功業ヲ立及ス處即德ト申義ナリ  
 是即皇天コレハハカミの賦命アタシタマフを奉ウケて國土ウチノミチ萬民マンミンハ皇御孫命ミコノミコの大朝廷オホミヤニ仕奉ツカヘる所以ソノユエニ  
 して天下あめつちの大道オホミチの天神あまのかん隨まなる所ところ是これなり

賦命トハ古今貴賤トナク一人ヲ生スルニモ神々ノ御心ナシニ  
 ハ生シ玉ハヌト也此ハ成人ノ後何ニスル此ハ何ヲサスル此ハ此  
 家職彼ハ此産業ト各爲サシムヘキ所アリテコソ生シ玉フナレ其  
 爲スヘキ事業ヲ皇祖天神ノ賦命ト云也其爲ス業一自分ノ渡世ト  
 思ヘトヤハリ此ハ皇御孫命ノ大朝廷ニ奉仕義ニテ即神隨ナル大  
 道也此ハ前ニ我皇神ノ大道ト説レシ大綱也然レハ天下萬民各家  
 職産業ハ皇祖天神ノ賦命ナレハ此ヲ修理固成シ子孫ヲ榮テ其業

ヲ授ケ皇御孫命ニ奉仕テ皇神ノ大道ト云モノゾトナリ○神隨ハ  
 惟神トモ隨在天神トモ天然トモ自然トモ字ヲ填テ御中在ノ義ニ  
 シテ神道中ニ在テ神ノ大道ヲ守勤ルノ義也天皇ハ天神ノ御依シ  
 ノマニ々々事アヤマタス中正ヲ守リ玉フ處神隨也萬民ハ大朝廷  
 ニ仕奉リ宦長師父ノ命令ノマニ々々取守リ各其家業ニ安スル處  
 即皇天ノ賦命ニテ神隨也

神典ハ皇祖天神ハ詔命を以て伊邪那伊邪美二柱神ハ是漂在國を  
 修り理め固め成せと宣へり是ハ於て二柱神夫婦選合して此國土萬物  
 を修り理め固め成して神功既ハ立チ徳も又大ハ成れり

神典トハ古事記神代卷等ヲ云○皇祖天神トハ前ニ云シ三柱ノ神  
 等ナリ○漂在國トハ此地球ニ成ルヘキ元質ノ物ニテ元來高皇產  
 靈神皇產靈二神ノ氣勢交感ニ因テ成レルモノヲ云此ヲ修理固成

セト宣ヘルハ満足ノ國トセヨトノ義也依テ二柱神自凝島ヲ畫成  
 シ得玉ヒテ其島ニ於テ夫婦選合シテ大八洲國ヲ產玉ヘリ此即皇  
 國也此皇國ノ外諸蕃國所有國々島々ハ鹽沫ノ凝成レルモノニテ  
 二柱神ノ產玉ヘルモノニ非ス然レモ鹽沫ノ國トナレルトモ皇祖  
 天神ノ御所爲ナルヲ論ナシ扱如此皇國ト蕃國トハ元來ノ地質カ  
 違フ故ニ皇天同シ種子ヲ蒔玉ヒテモ人物ヲ始萬ノ物モニ皇國ヨ  
 リハ蕃國ノモノハ甚粗惡也カク地質ヲ違ハセ玉フ處皇祖天神深  
 キ神慮坐マシテノヲ論ナシ皇國ハ君國ニテ蕃國ハ臣國タルヲ此  
 時ヨリ分明セリ然レモ中ニハ蕃國ノ物ノ勝レルモアレト物品ニ  
 ヨリテ沃土ニ應セス瘠地ニ應スルカアレハ也偕二柱神此國土ヲ  
 產マシテ日神月神八百萬ノ神ノ祖神ヲハシメ天下有ユル萬物迄  
 生産シ玉ヘルハ詔命ノ如ク漂在國ヲ修り理メ固メ成シ玉フニテ

六

即御功業モ立テ御成徳モ大ニ整成玉フニソ有ケルトノ義也  
神ノ繼ぐル人民有テ各相割據テ國土萬物ヲ修リ理め固め成して其源  
在る所を全くテ人民功業ノ立所此あり

右申ス二柱ノ神八百萬ノ神ヲ産マス緣故ハ國土ヲ經營シ玉ハン爲  
其國土ヲ經營シ玉フハ萬民ヲ住シメン料ノ神業其萬民ハ皇孫命  
ニ奉仕サセ玉フ料ニテ神々ノ中ニテモ經營ノ功等シク坐シハ素  
蓋烏命大國主命少彥名命ニオハシテ取總テハ皇祖天神天照大御  
神ノ御幸ヘニ因レリ然テ其天照大御神ハ忍穗耳命ヲ生シ忍穗耳  
命ハ瓊々杵命ヲ産マセリ此即皇孫命ノ御始祖ニ御坐セリ其外所  
有神々皇祖天神天照大御神ノ詔命ノマニ々々其天職ヲ守リ勤メ  
マシ瓊々杵命御天降以來ハ御代々ノ天皇ノ勅命ヲ即皇祖天神ノ  
詔命ト奉シ玉ヒテ各其職業ヲ守勤玉ヒ御子孫連綿シ千系萬系ニ

七

支別シ天皇ニ奉仕玉ヒ水土ノ地勢ニ因テ村里ヲ成ステ各相割據  
ト云也斯テ國土萬物ヲ各修理固成シ玉ヒツ、今世ノ如ク成來レ  
ルモノニテ此即神ニ繼クニ人民有リト云フ萬民其漂在ル職業ヲ  
能ク勤守シ修理固成スルハ人民功業ノ立ツ所以也トノ義ナリ  
天下ノ大道ハ如此ク彝倫ニ存シ天神隨に行われて在る者にして焉に  
由されバ須臾を立つ事能はざる者也然るを世人我が大道ハ如此ク天  
地固有ノ神道なる也

天下ノ大道ハ如此ク彝倫トハ前段ノ如ク萬民其家職ヲ日夜勤  
守スルハ即皇祖天神ノ賦命シ玉フニテ天皇ニ奉仕サセ又妻子ヲ  
養ヒテ子孫相續セム爲ニテ畢竟修理固成ノ功ヲ成サシメ玉フモ  
ノ也天下ハ天下ニ修理固成スヘキアリ一國一郡一郷一村一家一  
身各々亦同シ又一生一年一月一日一時一刻亦各々天地人爲ノ修

理固成スヘキアリ一二例ヲ云ハハ春夏秋冬ト氣節ノ移行ニ隨テ五穀草木ノ生出ヨリ花實ヲ結フ類即天地一年ノ修理固成也此ヲ時節ヲ違ハス時々ノ手入養育シテ花實多ク成サシムルハ即御百姓ノ一年ツヽノ修理固成也又小兒生長ニ隨ヒ五六歳ヨリ漸々ニ讀書算筆ヨリ始メ萬民各其家職ヲ見習ハセ後々ハ專ト家職ヲ勤守スルハ即一身ノ上ノ修理固成也如此萬民ノ家職ヲ段々ト運ヒ見ルト漂在ル生國ヲ足國トスル處ヘ至ル也此即二柱神ノ御神策ニテ實ニ難有ナト申モ恐キ至極ナレト不易ノ神議ニコソサテ又五倫五常ナト、日々ニ云立コソセテ今日親ヲ愛敬シ子ヲ愛育シ主人ニ大事ト奉公シ各々家職ヲ大切ニ勤守ル類如何ナル下賤文盲ノ者ニテモ日夜行ヒ居ルコト也故ニ彝倫トテ平常ニ存在シアリトノ義ナリ此ハ人一生日夜朝暮人毎ニ教授人アリテ如此爲サシム

ルモノニ非ス故ニ天神隨ニ行ハレテト説レタリ一日片時モ如此爲ヌ國家アラシニハ其家國ハ立マンキコソト也實ニ瞬息ノ間モ君父ニ不敬ヲ仕向ケ關テナラサル勤ヲ欠家職ヲ厭フノ類アラハ須臾トテ暫時モ其身立サルコト勿論也然ルコトヲ教アルモ教ナキモ爲ルハ神隨彝倫ニ行レテ在ル故也如此天地開闢以來天皇祖神ノ立玉ヒ定玉ヒ行レ來ツル道故ニ神道ト云蕃國ハ皇國ノ如クナラス彝倫ヲ誤リ犯ス者アル故ニ法令嚴シク教ヲ立テ強テ行ハスルナレハ皇國ノ我シラス行ハレテ居ル道トハ雲泥ノ差異アル故皇國ノ道ヲサシテ我カ大道ハトモ天地固有ノ神道モ説レシコトナリ其道の内ニ處ナガク儒釋と鼎立せる者の如く思ふハ文盲千萬の事をり識者も常ニ比べらるるは大道を精究し、を良とするハ儒釋の輩ニ計較争辨ハ中古より以來彼教多崇信を輩の多を見て二教と同

しやうなる者も心得居る識見甚卑きよ依れるなり

其道トハ天地固有ノ神道ヲ云也其神道ノ内ニ居テ日夜其道ヲ各々行ヒ居ナカラ大凡ノ世人ハ神道ト云モノハ儒釋ノ教ニ等シ並ト心得神儒佛ノ三教ト云タテ鼎ノ足ノ三ツアルヘキモノ一ツ欠テハ鼎ノ立サル處ヨリ欠ヘカラサル譬ニテ鼎立セル者ノ如ク思フハ文盲千萬トノ義也此鼎立ト云フハ必僧徒ノ云出シタルヲナルヘシ己獨リ不立トナソレ世ニ取ハヤス儒道ト萬古不易ノ神道トヲ取籠テ容易ニ廢サルマシク思取スヘキ奸意ニ云出セルナラン返ス々々モ神道ハ天地ヲ造作シ玉ヘル神ノ道ニテ俗ニ云ハ神作也儒佛ノ二教ハ人作也天地サヘ作り出シタマヒシ神ノ神作ト復ノ後世ニ言痛ク心狭ク傍ヲ奸術アル者ノ人作トナ同様勝劣ナキトニ思フハ譬ハ今爰ニ珊瑚ノ玉三種アル中其色一ハ桃花

色一ハ紅ニシテ榮アリ一ハ珠ニ目ニ付ヤウニ赤シ此赤キハ硫黃松脂ヲトテ以テ朱砂光明丹ヲ加煉リ紅映アルハ象牙ヲ煮付色取タリ此二品ヲ其分ニ應シテ無上トスレト元來天造ノ桃花色ナル真珊瑚アルヨリ二品ノ人作モ出來タルヲ三種共皆一列ニ同シ類ト思ヒ天造人作ノ真偽分別モ成サルカ如キモノ也如何ニ文盲千萬ナルヲナラスヤ○識者トハ和漢古今ノ事物ニ昧カラス博學多才ナル俗ニ云物知ノト也此處ハ專ト皇國學スル識者ヲサシテ説レタリ皇國學スルニハ儒流ノ識者ヨリモ昧カラテハ成ラヌト也然ル識者ノ儒佛ノ道ハ皇國ノ道ニ並ヘ競ヘモ成サル貴キ神道ヲ精究ナカラモトモスレハ儒釋ノ輩ニ並ヘ競ヘシ首引ニナリテ争フハ畢竟中古以來ノ流弊去カタク二教ト同シヤウナル者ト心得居ル見識ノ卑キ故也トノ義ニテ中古以來トハ應仁天皇ノ御代ニ

儒學渡リ、欽明天皇ノ御代ニ佛教渡リシヨリ以來貴賤上下トナク  
彼二教ヲ珍ラシク崇信スル輩、追々澤山ニナリテ、今世ノ如ク成來  
レルモノナリ。如此胎内ヨリ其氣ヲ受幼年ヨリ其書ニ染着居レハ  
假令皇國ニ志アル輩ニテモ識者ニテモ一經ノ文ヲ書クニモ一冊  
子ヲ著スニモ漢竺ノ故事ナトナ引付ルヲ巧手ト心得ル故ニ自然  
首引ニナリ來レル風俗トハナレル也。此ハ假令ハ孝子貞婦ノヲ  
書綴ル文中ニ古ヘ何某ト云穢多モ如此孝義アリ乞巧ノ何某モ如  
此貞烈アリキナト、記シナハ其孝子貞婦ハ穢多乞巧ト等シ並ニ  
舉ラル、ナ快ク思フヘシヤ不快ニ思フヘシヤ論アルマシ穢多乞  
巧ノヲマテ知レルハ如何ニモ博學ノヤウナレト良民ノ孝子貞婦  
ニ首引サセテ記シ出シハ見識ノ卑キヲ論アルマシキ也。然レハ皇  
國ノヲ記サムニハ漢竺ナトノ蠻夷ヲ同等ニ引ヘキヲニハ非ス

如何ソ彼二教ヲ云腐シ皇國ノミ稱揚スト云シニ前文ニ論如ク皇  
國ノ大道ハ人作ナラス天地造化ノ神等ヨリ相承傳來セル道故天  
地固有ノ神道也。儒佛ノ二教ハ人作ニテ犯ス者アルト我慢トニテ  
立シ法ニシテ天地固有ノ神道ハ自然ニ行ハル、故ニ神隨ナル道  
也。人作ノ教法ハ自然ニ行ハル、ト能ハス勿論天地一枚ノ中ニテ  
彼カ天地ト此ノ天地ト別物ナラネハ諸蕃タリモ元來ハ皇祖天神  
ノ御末トシテ國土ヲ開キ其國柄ニ應シテ神聖道ヲ設ケ玉ヘリ其  
ハ漢土ニテハ神仙ノ玄道天竺ニテハ梵天王ノ婆羅門道此ニツハ  
最初我神聖ノ立玉ヘル道也。然ルヲ追々校意ニ言痛キ輩出テ古來  
ノ道ヲ排斥シ立タルカ儒道トナリ佛道トナレル也。抑堯舜禹湯文  
武周公ナトテ聖人トハ云ヘト然ル者ニハ非ス聖トハ日知ト訓テ  
天照大御神ノ大御心ヲ御心トシテ天津日嗣ヲ知シメス吾天皇ニ



コソ申スヘケレ此ヨリ及シテ彼國馭戎ノ神等ヲモ神聖ト稱フナ  
 リ故ニ孔子モ聖ハ德天地ニ合明日月ニ並ト説ケリ然ルチ堯舜以  
 下ニモ讚稱セルナリ然テ彼土ノ邃古ハ皇國ノ國ツ神等馭戎シ玉  
 ヘリ三皇ハ即二柱大神ト須佐之男命ニ坐シテ是ハ開闢ノ神ニマ  
 セハ別段ノ一五帝即皇國ノ神聖ナリ伏羲神農黃帝少昊顓頊ヲ五  
 帝ト云古説ナルカ伏羲ハ大國主命ニテ須佐之男命ノ御子ニ御坐  
 セリ神農黃帝ハ兄弟ニテ共ニ伏羲ノ子ナリ少昊ハ黃帝ノ子也顓  
 頊ハ黃帝ノ曾孫也少昊マテ四王ハ皇國ニテ生レマセシカ顓頊ハ  
 西羌ノ女腹ニ卑城ニハ生ルレト少昊氏養取テ皇國ニ遣シ大人君  
 子ノ風ヲ習シメタリ如此皇國ノ神聖方ノ馭戎シ玉ヘル故ニコソ  
 五行神ヲ五帝ニ配シタレサテ顓頊養テ王タリシ帝嚳モ黃帝ノ曾  
 孫ニテ顓頊ト同シク神國ニ成人ナラシメシナリ此帝嚳ノ子帝摯

后稷契堯各異母兄弟ニテ帝摯ハ長子ナリ后稷ハ元妃ノ生ルナレ  
 ト大人ノ迹ニ感メ孕ミ契ハ其母玄鳥ノ卵ヲ吞テ孕ミ堯ハ其母赤  
 龍ト合婚シテ生ル子故ニ實ノ胤子皇國姬姓ノ帝摯ヲソ嗣ニ立タ  
 リケル然ルチ在位九年ニシテ唐堯即位セリ此堯ノ即位甚不審ナ  
 リ其ハ史記ノ正義ニ摯在位九年政微弱而唐侯德盛諸侯歸之摯服  
 其義乃率羣臣造唐而致禪唐侯自知有天命乃受帝禪乃封摯於高辛  
 トアルチ竹書紀年ニハ帝摯立九年而廢トアリ此紀年ノ文ハ子カ  
 不審チ了解スルノ明文ナリイテヤ其由チ辨セン九年而廢セラレ  
 ヲト云ヘハ廢セシ人ナクテハ叶ハヌヲナリ其廢セシ人ノ頭取ハ  
 堯ニテ廢セシ人ハ諸侯ナルヘシ若シ此チ堯ハ一切知ラスト云テ  
 モ其申披ハ立ス如何トナレハ諸侯カ然ルヲ云山スニモセヨ堯  
 モ凡下ノ庶人ト違ヒ唐侯ニ封セラレテ有ナカラ諸侯ノ不義チ爭

テカ黙止居ケルソ黙止居テハ堯ノ頭取ナル所ハ免レヌ然ルナ唐  
侯德盛ト云フナハンメ堯母子カフナ奇瑞ニ托レテ古書ニ種々見  
ユル篡奪ノ非ヲ掩藏サンカ爲ナリ又文帝嚳ノ目鑑ヲ以テ嗣ニ立  
タル帝嚳ノ微弱至極ニシテ物ノ用ニ立サルホトノフハナキ筈也  
殊ニ文帝嚳ト同様ニ皇國ニテ大人君子ノ風俗ヲ學ヒタルヲヤ此  
風儀ハ溫柔ニ見エテ表ハ微弱ト云ヘケレト較黠ナルトハ玉石ノ  
差別アル也今按スルニ帝嚳身退リテ後堯ヨリ后稷契等ニ語り合  
撃ハ長子ニモセヨ次妃ノ子ナリ何ソ元妃ノ子ヲ嗣ニ立サル杯ト  
后稷ヲソノカセトモ其母姜嫄ハ皇國人故后稷ヲ強諫テ文帝嚳  
ノ御心ニ背ナト諫シケム故ニ后稷ハ辭シツラン如此テ元來巧シ  
堯カ位ニ即クフニ思決レ九年ノ間諸侯ノ心ヲ取テ表邊計リノ仁  
義ヲ行ヒ世ニ謠ヒ人ヲ欺キ諸侯ヲ懷ケン故ニ諸侯歸伏レツラン

歸伏セル故ニ德盛也ト云立ケン然ナカラムサト篡奪ノ成難サニ  
諸侯ニ密計ヲ授ケ帝嚳ニ勸メテ禪ヲ授ケサセ天命ヲ申立ニレテ  
禪ヲ受タレハ其實衆諸侯ヲシテ撃ヲ廢シ体ヨク篡奪レテ即位セ  
ルヲ論ナシ當昔撃カ等族ノ黄帝少昊顓頊等ノ子孫アリシヲ論ナ  
ケレト堯カ如キ不義ノ行セル者ニハ言交スモ穢ト思ヒテ黙止居  
タラメ尤庶人ト成リ下リ居ヲハ諷諫モ無詮ナルヘシ又堯ハ然ル  
者ナレハ此ヲ預メ防ク計策モ爲置ツラム此愚説闡推ニシテ的中  
セス實ニ撃ハ微弱ニシテ物ノ用ニ立メカラノフナラハ堯ハ臣位  
ニ居テ主ト政事ヲ攝行ハ天下無事ナルヘク其身ノ功績モ立ヌ  
ヘシ然モ爲シ難クハ撃ヲ太上皇トシ堯其後嗣トナラハ少シハユ  
ルス處モアレト自身即位センカ爲ニ奸術ヲ行ヒ文帝嚳カ立置シ  
長子ノ帝嚳ヲ廢シテ入代リ臣位ニ下ス罪ハ不濟フナリ文帝嚳ヲ

如何思ヒツルソ如此不義ノ行ヒセルヨリ汝一身ユソ王位ニ昇レ  
皇國神明ノ御罰ニテ子孫承續セス遂ニ一定ノ王系ナキモ此ニ初  
リ君臣ノ大義ヲ亂シ陰謀ヲ後世ニ遺シ我カ大人君子ノ國風ヲモ  
習ハヌトニナリ漢土千古ノ亂階此ニ基セルトナレリ如何ニ悲  
シキ事ナラスヤ然ルヲ生儒者ハ赤龍ノ瑞ヲトテ無上ノトニ思ハ  
メト元來非類ノ胤ナレハ如此不義ハ出ケメ何ソ聖德ヲト、云ン  
若赤龍ヲ神瑞トセハ彼周末幽王カ愛セレ褒姒モ龍ノ鬃ニ成レル  
子ナルヲ周ヲ滅ス基ト成リシハ如何ソヤ因ニ云堯カ赤龍ノトヨ  
リシヲ彼土ニテ王ヲ龍ニ擬シテ龍顏ノ逆鱗ノト云出ケメ彼土ニ  
惑溺スル弊風トハ云ナカラ恐多クモ我天皇ニモ此語ヲ用ルハ有  
マシキト也然テ堯ハ擊ヲ微弱也トシテ自慢シ即位セレハ其嗣子  
丹朱ハ開明トアルカラ魯鈍ノ者ニハナケントモ普通ノ者ヲ立テ

ハ篡奪私欲ノ汚名萬世ニ朽ス差當リ天下ヘ對シテサスカ面皮不  
濟故是ニハ大ニ苦心シテ四嶽又ハ許由或ハ子州支父ニ天下ヲ讓  
ント云凡皆不義ヲ惡ミテ不受殆ト迷惑レテ貴戚及ヒ疏遠隱匿ノ  
者ヲ悉ク舉ヨト云出シタリ其時虞舜カト出來舜ニ讓ラント云ヘ  
トモ是モ固辭セリト見エテ無據一術ヲ按シ出シテ龍馬ニ龜甲ヲ  
銜マセ又玄龜ノ背甲ニ舜ニ讓ルヘキヨレ書テ是天命ナト、人ヲ  
誣欺テ讓リシ也如何ニ狂氣タル舉動ナラスヤ帝擊ヲ廢セル時ハ  
此奸術ハ未ダ心付サリシト見ユ堯在位中洪水九年アリシハ九年  
ノ閒諸侯ノ心ヲ取奸術セル幽報カモシレヌ何ニシテモ天神其不  
義ヲ惡ミ玉ヒ又率リシ人民モ多ケレハ此變アリテ上下苦レミシ  
ナリ帝擊カ代ニハ然ルト一モ聞エサルヲヤ然スカノ堯モ此變事  
ニハ心細クナリ自ラ覺エノアルト故帝位モ懶ク空怖レク成テ類

ニ讓位セマホシク成レリト見ユ然レモ例ノ我慢カ負惜ミカ天下ノ爲ニ賢明ヲ君ニセント云立テ舜ニ讓リシ也父帝嘗ハ帝業ヲ承續セントテ帝擊ニ傳ヘタル其意ヲモ得ヌ祖業ヲ他ニ讓ルトトナリタルハ祖先ニ對シテ不孝ノ至リナルヘシ後ナキヲ不孝ノ大也ト爲ト云ニ非スヤ此ハ其血統ヲ云フナルカ業統モ隨テ同レキト論ナシ如此不義不孝ノ行ナル堯ヲ聖人ノ巨魁ト尊崇スルハ何トソヤ又其禪ヲ受タル虞舜出自ハ顓頊ノ末ナレハ其系皇國神聖ノ裔也然レモ堯ノ二女ヲ娶ルハ曾祖姑タレハ人倫ノ理ニアラスモ又達理ニ非スモ彼國人ニサヘ讓ラレ其非ヲ塞ントテ堯豈妻合セシヤ信スルニ足スト云愚説モアリ又衣裳ノ服ヲ爲テ民目ヲ眩シ五音ノ聲ヲ調テ民耳ヲ亂シ皇韶ノ樂ヲ作テ民心ヲ愚ニス天下ノ亂此ヨリ始ルモ云腐サレタリ殊ニ堯位ヲ辟テ廿八年ニシテ崩シ

タルニ三年ノ喪畢テ舜丹朱ニ讓テ辟タルハ何ト云フソヤ實ニ讓テ辟ル氣ナラハ三十一年前ニ辟ヘキトナラスヤ如此表邊ハカリノトナ手柄トスル故其末流ヲ汲モノ皆々此氣習アリテ見聞スルモ難澁也然テ後嗣ヲ堯カ所業ニ擬テ例ノ天下ヲ善卷又石戸之農又蒲衣子ニ讓ント云モ皆受ヌ遂ニ禹ニ讓リタリ此時モ如例黃龍圖ヲ負テ出タリ禹ニ禪ルヘシトソ是又神人ヲ誣シナリ舜ハ子ノ商均ニ讓リタク有ツラモ然シテハ堯ヘ對シテ濟ス又衆人ノ批判天下モ服スマシケレハ無據禹ニ讓リタリト覺ユ然レモ表邊ハ例ノ名聞ニテ天下ハ一人ノ天下ニ非スナト云觸シタリ何分不義不孝ノ堯ニ黨シテ其禪ヲ受堯カ行ヲ行タル者ナレハ即同臭ノ人物ナルト論ナシ湯武ノ弑奪ハ此堯舜ノ受禪ニ基セルト著明也禹ハ黃帝ノ玄孫ニテ顓頊ノ孫ナレハ神胤遠カラスト云ヘシ舜ノ讓

ヲ受タレハ同臭ニ云ヘケレニ三人ノ中ニテハマツヨキ人ト覺ユ  
 水土ヲ平ケ天地ノ化育ヲ贊テ民ニ所ヲ得シメシ功業ヲ天祖皇神  
 愛シク思シケメ治水ノ節品々神祇ノ御幸ヒアリシ也此故ニ子ノ  
 啓ヨク出來テ讓リシ益ニ人民服セス啓ハ王位ヲ有ツヲ得タリ  
 是全ク禹ノ功績ニヨル也孔子モ間然スルヲナシト云又必也聖  
 乎堯舜其猶病諸ト云テ以テ見レハ禹ハ堯舜ニ優リタル處アル故  
 カモシレス湯ハ帝嚳ノ裔也夏桀ヲ伐テ王位ヲ奪タリ桀無道ナリ  
 正シク湯カ君也君無道ナレハトテ臣トシテ此ヲ伐百姓ヲ云立  
 ニシテ位ヲ奪フ法ヤ有ヘキ殊ニ陰謀ヲ行ヒテノヲナリ其ハ桀カ  
 愛スル女華ト云女ニ金ヲ賄シテ内方ヨリ取入又曲逆ト云寵臣ニ  
 モ賄シテ外方ヨリモ取入遂ニ湯ハ天子ト成レル陰謀ノ由管子ニ  
 見エタリ篡奪以前綱ノ三面ヲ去ラセシナト云ハ例ノ名聞ナリ

禽獸一々ニ何ソ人語ヲ解スヘキ此ハ讚岐ノ大華ト云儒者モ蚤  
 ク論シオケリ若實ニ評判ノ如ク德禽獸ニ及フトノヲナラハ其君  
 桀カ無道ヲ諫テ何ソ人並ニハセサルソ君ヲ諫負セヌ程ニテ其德  
 禽獸ニ及フト云理ハナシ此即名聞ノ著キ處ナリ大早七年マテ續  
 シハ堯水九年ト同シク皇天上帝ノ御心ニ叶ハサル處アル故ナル  
 ヘシ身ヲ以テ桑林ノ野ニ祈リシカハ雨フリシトテ聖德ノ致ス處  
 トケヤケク云ヘニ吾ヲ以テ見レハ實ニ聖德アラハ七年ノ早ハ非  
 ルヘシ然ルニ有シ上ハ何ソ七年ノ間默止シテ萬民ノ苦ナ心長ク  
 モ見テ居シソ又祈テ雨フレハトテ聖人ト云理ナシ若誣テ此ヲテ  
 聖德ト云ハ、能因法師モ其角モ聖人ノ部ナルニヤ今世ニテモ禰  
 宜山伏ノ祈禱ニテ往々雨乞フラスト衆人知ル處ナリ此ヲモ聖德  
 ノ類トセンカ此ハ只一心ノ丹誠ヲ神モアハレト納受マシマス

ナリ七年ノ間真心ニ成シ得サル成湯ヲ何ソ聖德ナト云ヘケン  
此七年ノ早ノ時莊山ノ金ヲ幣ニ鑄テ民ノ糧ナク子ヲ賣ルモノヲ  
贖ヘリト云フアリ皇國ニテハ人賣買ハ嚴禁ナルモ貧ニ迫リテ竊  
ニ賣ルモアリト聞ケリ此漢土ノ惡風俗ノ推移レルニテ上古ハ聞  
サルヲ漢土ニテハ古クモ如此ナルヲ以テ彼土ノ惡風俗ナルヲ知  
ルヘシ此ハ因ニ云フ也文王昌ハ是モ帝嘗ノ裔ナリ武王發周公旦  
ハ其子也昌西伯タリシ往時野邊ノ枯骨ヲ斂シモ成湯カ網ノ罽ニ  
倣ヘルヲニテ即名聞ヲ求ル計策也德澤枯骨ニ及ヘルヲハ其君  
ノ紂カ無道ヲ何ソ諫サル紂諫ヲ拒キ非ヲ飾テ力不及ハ幸其親族  
ニ賢者モアレハ其中ヲ見立テ君トシ補佐シテ君位ヲ全クスヘキ  
道ナルニ却テ君家ヲ篡奪スル志ヲ起セシハ此何ソ聖人ノ所業ナ  
ラン殷紂ヲ伐テ王位ヲ奪シ業ハ武王ナレト元來文王ニ起レリ文

王其志十分アリシナレト時至ラスシテ死セルナリ故ニ臨終ノ遺  
言ニモ見善勿怠時至勿疑去非勿處ト武王ニ戒メタリ百姓ヲ撫育  
スルヲナトテ遺戒スヘキニ此三句ハ專王位ヲ篡奪スルヲ遺戒  
セリ其中初後ノ二句ハ然ラスト云誣メテ中ノ時至勿疑ノ一句  
ニ於テハ如何ニモ誣ヘカラスヨク其文義ヲ思フヘシ又此篡奪ノ  
爲ニ易テ作爲シテ懸記ニナシオケルヲ平田翁ノ明解アリ然レハ  
武王ハ文王ノ志ヲ繼テ紂ヲ伐レテ論ナシ其ハ文王ノ木主ヲ設テ  
盟津ニ押出行軍シ文王ニ奉テ伐ニテ專ニセサルナリトテ自ラ太  
子發ト名告ルナレハ文王カ志ヲ繼ルト傍名聞ヲ求ルトニテ此ハ  
周公旦カ奸謀ヲラント覺ユ旦モ主ト大事ニ關レルナリ伯夷叔齊  
カ馬前ニ立テ諫シテハ何ト心得タルナラン伯夷叔齊ハ彼等ニ比  
シテハ大義ヲ知レリト云ヘシ此皇國ニシテハ人並ナリ勿論淺智

カ名聞カノ人物ナリ乗出シタル馬前ノ諫ハ何事ソヤ止タクモ止  
 ラルマシキ時節ニ及ヘルモノヲヤ偕湯カ伐奪ノ時黑龜ノ赤文ニ  
 夏桀無道湯當代之トアリタノ武王カ東征ノ時孟津ノ舟中ニ躍入  
 シ白魚ノ目下赤文アリテ紂可伐トアリタノト云フハ皆堯舜ノ時  
 ニ用ヰシ龜甲黃龍ノ奸術ヲ摸シタルナリ追々衆人モ賢シク成タ  
 ル故武王カ時ニハ此奸術ハ大ニムツカシクアリシナリ其譯ハ白  
 魚躍入シ時武王俯テ魚ヲ取レリ長三尺目下ニ云々ノ字アリ寫ス  
 ニ世字ヲ以テスレハ忽魚ノ字消タリトアリ先ツ武王自ラ俯テ魚  
 ヲ取レトト世間通用ノ文字ニ寫シ替ルト其儘魚ノ文字カ消テ仕  
 廻タト云フハ奸術ノ處ニテ發カ奸計想像ルヘシ此ハ事ヲ昊天  
 帝ニ託シテ天命ヲ云立ニスル業ナレハ萬民ヲ誣ルサヘ其罪多々  
 ナルニ昊天上帝ヲモ誣罔スト云フハ言語道斷ナリ又紂在位中ニ

西伯受命ノ年ニ自ラ王ト稱スルモ言語道斷ナリ天ニ二日ナク地  
 ニ二王ナキノ言順名正ナトノフハ平日ノ口實ト聞シニ其君在位  
 中ニ臣下ノ分トシテ王ト稱スルヲ即紂ヲ伐シモ同クナリ武王カ  
 紂ヲ伐時ノ誓ハ天罰ヲ行フト云フアリ天罰トハ昊天上帝ノ幽ニ  
 罰ヲ降シ玉フヲコテ彼カ云々ナレリシハ天罰也ト佗ヨリコソ云  
 フナレ武王カ欲心ヨリ不義ヲ行フ自分トシテ天罰ヲ行フト云ハ  
 何事ソ文事ノ風土ト人皆思ヘル國ニ在ナカラ如此文義ニモ義理  
 ニモ昧キフテ吐出テモ衆人心醉シテ知サルニヤ又紂カ燒死タル  
 屍ニ對シテ武王自ラ三度射鉞ニテ紂カ頭ヲ斬旗ニ梟首セリトハ  
 何ソ眼前ノ主君ナルニ國家ヲ奪フサヘ言語道斷ナルニ燒死タ  
 ルヲ如此マテニスルトハ餘リナル仕方ナラスヤ皇國ノ法ヲ以テ  
 セハ武王コソ如此スヘキモノナレ孟軻カ一夫ノ紂ト云レ過言ハ

此男人臣トナラハ其君ニ謀叛ヲ起サスヘシ若諸侯トナラハ必自  
ラ叛逆スヘキト此一言ニテモ知ラレ又臣君ヲ視ルト寇讎ノ如シ  
ト云ヘルニテモ著明也儒意漢魂ヲ離レ公平ニナリテ其心根ヲ察  
ルヘシ此裔孫ニ武林唯七ト云モノ元祿年間大義ヲ全クセシハ皇  
國ニ歸化セル故徳ニ化セラレタルナルヘシ扱周公旦ハ殷ヲ伐シ  
謀士ナレハ昌發同罪論ナシ發カ病氣ノ節身代リノ祈セシハ理リ  
ナレト其辭ニ王發且カ多才多藝ニ如ス鬼神ニ事ルト能ハストハ  
自賛不遜ノ甚シキナラヌヤ身代リノ意ヲ切ニ云ヘル由ナレト然  
ラハ祈ルニハナク鬼神ヲ誣ル筋ニテ相濟ヌトナリ賢士ヲ失ハン  
トノ案事トテ一沐ニ三度髪ヲ捉リ一飯ニ三度哺ヲ吐ホトノ蒙昧  
ニ在ナカラ多才多藝トハ廣言也沐シツ、飯シツ、何様ノ心配モ  
出來ルモノヲ手モヤメ口モヤメ子ハ思慮心配ノ出來ヌトハ愚蒙

ノ甚シキニ非スヤ若然ナクハ例ノ名聞也噉タモノ迄ホキ出シテ  
其様ニキヨロツカスモヨサ、ウノモノヲ甚拙ク狂氣タル態ナラ  
スヤ能ク事情ヲ察シテ知ルヘキモノナリ文辭ノ華ト云遁ルモ遁  
レヌトナリ又紂カ子武庚ヲ封シテ且カ兄弟管叔蔡叔ヲ武庚ニ付  
ケ事ヲ相ケサセツ、且ハ成王ノ幼弱ヲ相ケテ攝政セルヲ管蔡其  
外群弟ニ疑レテ流言ニ逢シモ無理ナラサルトニテ此且ハ如何思ヒ  
ケム踐祚シテ攝政セリ然レハ即位ト同義ニテ衆人ノ疑ハ當前ナ  
リ發カ身代リノ祈ニ自賛不遜ノ言ヲ出ス体ノ者故君位ニ即シト  
論アルマシ然ナクテハ踐祚トハ記サルマシ君臣義アリトハ何チ  
云トソ踐祚攝政ト云義ハ古今不通也武王カ天罰ヲ行フト云ト一  
雙ノ失言先行ナルヘシ袁廣カ説ニ武庚ハ商家ノ元子也三叔同ク  
商ノ遺臣也去就ヲ審ニシテ親ヲ忘レ國ニ殉フ云々三叔ノ君ニ篤



キ綱常名教均ク愧フナキ者也ト云シハ具眼ノ論ト云ヘシ此ニヨ  
レハ管蔡等ハ大義ヲ知ルニ似タリト云ヘシ然ルナ其流言且カ耻  
辱也トテ武庚ヲ誅シ兄ノ管叔ヲ殺スト云ハ是亦大罪ナラスヤ且  
カ所業ノ無實ヲ流言セルナラハ無實ノ所明白セハヨケン誅殺セ  
ルハ必不義ノ行アリテ間合カヨケレハ成王ヲ何トカスルナルヘ  
シ然ルニ成王無事ナルハ全管蔡カ忠義ニヨレリト云ヘシ如此各  
不義無道ナル者ヲ何ソ勿体ナクモ聖人ナト、云ヘキ何ソ祖述憲  
章スル理アルヘキ日本魂ヲ以テ云ハ、此等ノ人物ヲ祖述憲章シ  
テハ不忠不義ノ者ニ荷擔セル人ト云ヘシ漢土ノ者ニシテハ然イ  
ハテハナラサル理ナキニシモアルヘカラス然レハ五倫五常ナト  
、云ヘト口先キ計リニテ實行ナシ綱常モ己カ心ノ引方ヘ故事付  
テ手作り出來ルモノナラハ其綱常大義モ想ムニヨシナキヲ知ル

ヘシ天地間不易不動ノ道ヲユソ綱常ニ大義大道ニ云フヘケレ以  
上ノ人物ヲ聖賢ナト、尊崇スルハ不忠人ノ荷擔トナルヲ高貴ノ  
御邊リニテハ知シ食スニヤ儒學專ラ御取用ヒノ以來、ニテモ古今  
ノ執政大小トナク儒輩ノ任セルヲ聞ズ各御家柄極リ居テ其職ヲ  
代々ニシ玉ヘルヲ即皇孫尊ノ御天降以來天上ノ御風儀ノ殘レル  
モノニテ最難有皇國ト稱スヘシ當時封建ノ御定モ又諸家ニテモ  
郡里ノ小吏マテ其職ヲ代々ニスル處ハ貴賤ニ分テ安シテ治リモ  
締リモヨク漢土風ニ移リ代リ早ク尊卑ヲ措テ小賢シキ者ノミ舉  
用ラル、國ハ却テ治ニクキモノナリ此ハ天朝ノ古法ト漢土ノ風  
トノ二ツ故ナリ故ニ堯以下ノ人物ヲ馬鹿ヒイキニ依怙スル者ハ  
如何ナル義ヲ仕出ムモ計リカダシ又佛祖悉多モ言語道斷ナリ其  
身ハ何ノ爲ニ生出セルモノソ父淨飯王カ嗣ト生シハ其家國ヲ治

ムヘキ爲ナルヲ父母妻子ヲ捨テ己カ怯ケ魂ニ無止ニ死ヲ怖レテ  
ノ出奔ハ不孝不義遁ル、處ナク其愚蒙至極ナルトモミルヘシ剩  
ヘニ廣言ノ我慢心止メ難ク深山ヘ入テ遂ニ魔法ツカヒト成リ固  
有ノ婆羅門道ヲ排斥ケ其動カス道理ノ勝手ヨキハ己カ方ヘ組込  
テ大言ヲ吐ナラシ折角ト蠢キ出來タル天竺ノ人種ヲ善來比丘ニ  
テ情ナクモ絶サント仕カ、リ覺リ切ダト己惚テ唯我獨尊ト高フ  
リ父淨飯ニ己カ足ヲ頂カセタルホトノ人非人カ立タル教ヲ佛法  
トハ云ナリ儒學ヲ尊フ漢土ニ渡テハ老子孔子モ佛ノ使也ト己カ  
方ヘ引込不都合ナラサルヤウニ其道ノ五倫五常モ佛説ニ作り替  
ヘ王法國法モ佛説カ源也ト其經ヲ作爲セル奸僧代々ニ多カリシ  
ハ所謂獅子身中ノ毒虫ナルヘシ其教法皇國ニ渡來シテハ勿体ナ  
クモ本地垂迹ノ名ヲ設ケ又何ノ神カ佛ニ歸シテ法ヲ聞玉ヘルノ

何ノ神カ法ヲ護リ玉フノト畏クモ神ヲ誣ヒ人ヲ欺キ尾ヲ付鱗ヲ  
添テ漢土ノ奸僧等カ作爲セル偽經ノ見分ケモ成シ得ス何モ彼モ  
佛説トサヘ云ヘハ尊信スルモノト心得偽經ヲ証文ニ引又此國ニ  
モ奸作セルモアルヲ説出テ無上ノ教法ト高フリ言語ニ絶シタル  
今ノ有様ニ成來レリ此ハ具眼ノ人ハ皆其非ヲ知レ、ハ委シクハ  
辨セス如此儒佛共ニ皇國ノ真人間ニハ施シ難キ道ナレハ其曲教  
ト神作ノ神道トチ一般ノヤウニ思フハ如何ニモ識見甚卑ク鼎立  
シテ一ツモ欠テナラヌト思フハ猶更文盲千萬ナルトノ義也然シ  
ナカラ儒學モ佛學モセヌカ宜キト云義ニテハ聊以テナシ世人心  
得違フ、勿レ儒學ハ勿論佛學モ暇アラハ爲ヘシ然ナクテハ事ニ  
狭クシテ差間モアリ第一皇國ノ無雙ナル處ヲ辨フルニ疎ナルヘ  
シ努々心得過ル、勿レ

儒も佛も我が神道に一端ある者にして赤縣天竺を勿論天下萬國に有と有ゆる人たる者悉く賢愚貴賤を問はず男女老少を云はば一生の間一日の中なる動靜云爲皆我大道の行ひに非るはふし

前文ニ儒佛ノ二道ヲ辨セラレツコトニ又神道ノ一端也ト云ハルハ世人不審ナラメト其ハ漢竺共ニ上古ノ玄道梵門道ハ前條ニ説如ク吾カ神聖ノ立玉ヘル處ナレハ神道ノ一端ナルヲ元來論ナキナ今ノ擬聖ト悉多カ立タル儒佛ノ曲教モヤハリ神道ノ一端也其故ハ我カ神道ノ至大ナルヲ論シテモ論シ盡スヘキモノナラネト其片端ヲ説シニ元來天地ノ外々ナモ網羅セルモノニテ大ニシテ小小ニシテ大高クシテ低ク低シテ高ク廣クシテ狭ク狭クシテ廣ク厚薄剛柔利鈍顯明幽暗深遠淺近温涼寒暑昇降進退往來曲直方圓生殺興亡盈虧禍福輕重動靜長短清濁緩急遲速精粗開閉

虚實異同損益斷續自佻多少聚散離合治亂出沒内外表裡屈伸ナルヲ准知スヘシ此ハ高皇產靈神皇產靈二神ノ高氣ト感氣ノ二ツニ元由シテ二柱神ニ及ヒ成タルヨリ起レリ故ニ天アリ地アリ日月晝夜水火春夏秋冬山川河海草木人畜男女夫婦父子君臣貴賤賢愚老少アリ其人類ノ言行ニハ善惡正邪アリテ利害得失盛衰吉凶成敗壽夭榮枯貧富究達ヲナス禽獸虫魚草木ノ類モ相推シテ知ルヘシ情世間ヲ考見ヨ大ナケレハ小ナレ小ナケレハ大ト云モナシ善ナケレハ惡モナレ惡ナケレハ善ト云モナキヲ必然ナリ故ニ如何ナル曲教醜法モ此大道ニ漏サルヲ曉ルヘシ如此爲ルヲ成スヲ善モ惡モ皆神道中ニ網羅セルモノナレハ儒佛ノ二道モ其中ノ一端ナルヲ知ルヘシ故ニ唐土天竺ハ勿論云々ト説レタリ天地間賢愚貴賤男女老少ノ動靜云爲ハスルヲナスヲノ善ニテ飯食フカラ

十

則ニ行クマテ何テモ彼テモ善モ惡モ不殘神隨ナル大道中ノ行ヒ  
ニ洩レヌト云フ也如何ニ廣大無邊ノ大道ナラヌヤ僅ニ一隅ヲ執  
守リ一套ヲ偏著スル如ク理屈詰ニ箱ヲサシテ物ヲ入タル如キ究  
屈ナルモノニ非スト知ルヘシ

其大なる事外無く其小なる事内なきが故ニ天地造化の大なる神祇の  
全能ニ脩身齊家の微なる一身の事業も皆此神道の作用ニ非ざるを  
無く日月風雲山川草木禽獸虫豸皆此神道の發見ニ非るは無し

天地ノ内外森羅萬像如何ナル廣大ナル事物モ如何ナル微少ナル  
事物モ此神道ノ彌綸セヌフナケレハ其大ナルヲ此神道ヨリ外ニ  
大ナルモノナク其小ナルヲモ此神道ヨリ内ニ小ナルモノナシ故  
ニ神祇ノ全能モ一身ノ事業モ皆此神道ノ作用トハ説レタリ然レ  
ハユソ日月風雲山川草木禽獸虫豸ニ至ルマテ神道ノ發見ナリト

十一

ノ義ナリ又此神道ヲ以テ日月晝夜ヲナシ萬物ヲ化成シ風吹キ雲  
行キ山ハ高ク川ハ低ク草ハ横ニ木ハ豎ニ茂生シ禽獸ハ飛走リ虫  
豸ハ歩這フノ類各々ノ作用モ又神道ナルヲ論ナキヲ知ルヘシ  
此即我が大道中ニ網羅せる物にして外よて來る此を祐るに非ざ神隨  
よして具有る所なす先此事を心得へし

神道ノ大道中ニ網羅ト云テ引クルメラレタル物ニテ神道ノ外ニ  
別物カアリテ此ヲ祐テ作用スルモノニナク別物カ發見サスルモ  
ノニモナク皆大道中ニ孕リ有ル故ニ其大道ノ神隨自然ニ具足シ  
有ル所也事々物々皆如此神隨ナルヲ先ツ能々心得ヘシトハ草  
木禽獸スラ如此モノ故ニ人倫ハ猶更ノヲニテ父子ノ親アル夫婦  
ノ愛アル君臣ノ義アル此即自然神隨ニ具足シアルモノニテ佗ノ  
教ニ依テ初テ父子ノ親夫婦ノ愛君臣ノ義ヲ知ルヲケノモノニハ

非スト云フキ合メラレタル義ナリ

否らされぬ道を舜倫の外に求める者と心得僻見を父子の親に背き夫婦の愛ヲ割て人性に率をさる道を道として徒に書典に預け置く今世に學者の如くは成る者なや豈此を大道と云ふ事を得む

否ラサレハトハ神隨自然ニ具足シ有ルヲ心得サレハノ義ナリ  
然心得サル者ハ道ト云へハ何歟大造學問シテ儒教ヲ受サレハ出來ヌトスルカラ舜倫トテ今日作業ノ外ニ道ト云モノ有リト心得違フ故ニ主親ヲ大切ニシ妻子ヲ育ム等ノ今日ノハ道ノ外トシテ等閑ニ心得ルカラ遂ニハ父子ノ親ニ背タルヲシ夫婦ノ愛ヲ割クノ類アリ親愛ハ神隨自然具足セルモノナリ其自然ニ違フ故人性ニ率ハサル道ヲ道トシテトハ説レタリ悉多カ教法ハ全ク此ナリサテ道ト云モノハ一朝夕ニ講釋モナラヌ程ノトト大造ニ儒

者モ思ヒ衆人モ心得ルカラ其道ハ書典ニ在リト片付置ク如ク成ルモノナリ然様ニ大造ナルモノナラハ中人以下ハ道ヲ行ハヌヨリ外ナシ道ヲ行ハヌハ何ソ此ヲ人ト云ン禽獸草木ヌラ各神隨ナル道アルヲ中人以下行ヒ難キホトノ大造ノ道ナラハ何トテ此ヲ大道ト云ヘキソト云義也

皇祖天神の靈威男女二神の恩頼に依り國土成り人類有る萬物生る所以に國土を人類在て修り理め固め成るを依りて成る所の者なり人類に國土を相割據て相共み其職業を以て修り理め固め成て相輔相保持つ者なり萬物を人類の國土を修り理め固め成るの徳を成し道を行ふ爲に天神地祇に賦與給ふ養料なり

皇祖天神ハ初條ニ申ス造化ノ三神ニ坐ス也男女二神ハ伊弉諾命伊弉冉命ニ坐スナリ以上五柱ノ神ノ靈威恩頼トテ深ク厚キ大御

心ノ御カケニヨリテ國土成リ人類有リ萬物生ルト云フナリ其國  
土ハ神ニツグニ人民アリト前ニ說レシ如ク人類ノ修理固成ニヨ  
リテ道々ニ大成スルモノ也○人類ハ國土ニ相割據テトハ一村ノ  
中ニモ陸田ノ連續セル處水土ノ地勢ニヨリテ家居ヲ成シ田島ヲ  
耕シ不定地ヲ道々修理固成シ山地ハ山地ノ營アリ川添ハ川ニ付  
テノ業アリ如此數村カ合シテ一郷ト成リ一郡トナリ一國トナル  
也一郡一郷タリモ人類一所ニ片寄家居ヲ成サス各其地勢水土ヲ  
考テ村ヲ成シ市ヲ成シ或ハ廣邑或ハ都會ヲ成ス此ヲ相割據ト云  
借其地其國ニ應シテ面々各々祖先傳來ノ職業ヲ修理固成シ四民  
相互ニ輔ケ相ヒ家職ヲ子孫ニ傳フ此即相保持ト云モノナリ天地  
間ノ萬物主トハ食衣住ノ用料ニ成ヘキ物ヲ云ル、勿論ナレト  
其外何一ツトシテ無用ノモノハナシ毒虫毒魚毒草トナモ皆是畢

竟スル處人類ノ爲也其人類ノ爲ト云ハ修理固成ノ業ヲ成スノ道  
ヲ行フ料ニ天神地祇ノ賦與給フ物ソト云フ也如何ニモ々々々々  
難有尊キナラヌヤ

萬物多しと雖も其質を爲す所土石なり草木なり活物なり此三種も過  
ぎ其用を利し事食物なり衣服なり居室なり又此三種も過ぎる事

萬物ノ質三種ニ過ス又其用ヲ爲ス處食衣住ノ三種ニ過サルト云  
師說古今未發ノ確言也其中衣服ハ草木活物ノ二種ニ限り居室ハ  
土石草木ノ二種ニ限リテ用ヲ爲ス獨リ食物ハ土石草木活物ノ三  
種共ニ用ヲ爲セリ食ハ人命ノカ、ル大切ノモノニテ衣服居室ヨ  
リモ急務ナル物故ニ其用廣ク三種ニ通スルト見ユ此ハ即造化ノ  
皇祖天神深ク厚キ御恩惠トソ申スヘキ借食物衣服居室ノ三種ヲ  
萬民ニ利用スル職ハ農工商ノ三種ニ此亦過サル也

如此く萬物有て人類益を事を得べし是を以て夫婦の道有て親子此に因て成る古語に天之益人と云るを此謂ふや此を統御する君に申し此に奉仕する臣に云ふ皆此に因て起るや

食衣住に成へキ萬物ナケレハ人類一日モ生存スヘカラス然ルニ其利用ノ萬物ヲ賦與給フ故ニ人類益スナリ人類アレハ男女アリ男女アレハ夫婦ノ道アリ夫婦ノ道アレハ親子アリ兄弟アリ朋友アリ如此益ス々々人草ノ益ス故ニ天之益人ト云古語アリ此益人アレハ其ヲ統御ルアリ其統御ルヲ君ト申スハ即現人神ノ天皇ヲ申シ奉ル也然レモ無數ノ人民故天皇ノ御手代ヲ任玉ヒテ詔命ノマニ々々事執リ司ルヲ臣ト云君臣ト云コモ元來ハ人類ノ益ス夫婦ノ道有ルニ基ツクモノ故ニ皆此に因て起れト説レタリ此ハ天地間古今萬國同一一般ニテ一郷一村一家トモ准知スヘシ一

家一村一郷一國ニモ統御アレハ萬國ヲ統御スル國ナクテハ叶ハス其統御スル國ハ皇國ニテ其大君ハ即現人神ノ天皇ニ兼ス也然レバ男女夫婦も人情の基本にして萬業の最初なり君は臣を御する事應ふ夫の婦に於るが如く臣は君に奉仕する事婦の夫に思ふが如く相愛し相睦ぶ時を明君なり其相おや父子の間此情を移せば慈父たり孝子あり兄弟朋友に於るも此意を以て信有り義有り各々其道を能爲るに至らむ斯を以て此を見れば夫婦ハ人道の規則にして人道ハ夫婦に資て立所の者なりや

此一段皇國固有ノ神隨ナル人倫ノ大道ナリ儒佛ノ教渡來後ハ其二ツニ迷惑シテ固有ノ大道イツトナク心得サルヤウニ成行タル故如此説出ラナタルナレハ天下ノ衆人心ヲ公平ニシテ承ルヘシ若狡奸ノ儒輩彼等カ尊奉スル五倫ノ道ニ因テ新タニ云立又ハ夫

禮始於太一本於陰易成於夫婦ノ君子之道造端乎夫婦ノ夫婦人倫之始王教之端ナト云處ヨリ按出タリナト云ンモ量リ難ケレハ神代ノ御事跡ノ廉々ヲ舉ケテ固有ノ大道ナルヲ示サン抑男女ニ柱ノ大神ハ皇祖天神ノ御靈ニヨリテ初テ夫婦遵合ノ道ヲ起シ玉ヒテ萬業ノ基本タル國土神人萬物ヲ生出シ玉ヘリ最初女神ノ尊先立玉ヒシヲ不良トシ玉ヘルニテ禮敬立初リ女神ノ火神ヲ産マセルキニ七日ニ滿ヌ中ニ男神ノ見ソナハセルカクテヨモツ國ニ女神ノ行玉ヘルヲ男神ノ追往マレテ語ラヒ給ヘル御言ナドイト懇切ニテ男神ト女神ノ御相互ニ愛シク思ホレメセル次第ハ即御情愛ノ至レル處ニシテ親愛ハ顯然タリ此人情ノ基本ナリ此二柱大神ノ大真心ヲ神々モ大御心ト受玉ヒテ次々生出玉ヘリ故ニ皇孫尊天降坐セル前ニ經津主命武甕槌男命ノ大詔命ヲ受玉ハリテ

平國ニ降り玉ヒシ始末又天降坐セルトキ五伴緒ノ神ヲハシメ諸ノ神等ノ皇孫命ニ仕奉リ玉フ次第君臣ノ道萬世ノ規則也此レニ柱神ノ大御心ノ真心ヲ受保坐シテ君臣ノ間ニ移シ敬愛シ玉ヒテ眞實ニ奉仕玉フ故也又須佐之男命ノ御子大國主命ヲ種々辛苦爲サシメ玉ヒ其辛苦ヲ凌キ坐セルヲ見玉ヒテ御心ニ愛シク思ホシ、事八十神ヲ追撥ヒ大國主神トナレト詔セル次第ハ姑息ノ愛ヲ離シタル眞愛ニテ眞ノ父子ノ道ナルヲ又大國主命ト少彥名命ト御心ヲ戮セ玉ヒシ始末兄弟ニモ朋友ニモ其道ノ至ナルヘシ右委シキ始末ハ神典ニ依テ其大御心ヲ酌奉テ伺ヒ知ルヘシ如此神代ヨリ固有ノ大道ナル故ニ儒佛渡來前迄ハ皇孫尊御天降ノ形勢ニテ年代久遠ノ中無爲ニ治リ來シモノ也儒佛渡來後ハ漸々ニ人心モ自ラ其方樣ニ移リ行マニ々々惡クナリテ佛國ニ習ヘル親殺シ



漢土ニ習ヘル主殺シナト云禍毒出來リタリ故ニ儒佛二教ニ迷惑  
 セス皇國固有ノ大道ヲ行フヘシ男女夫婦互ニ相敬愛スル心ハ誰  
 モ思ヒ見ヨ外見飾テノ勤ニモアラス假初ニ偽テスルニモ非ス他  
 ノ懇頼ヨリ爲ルニモ非ス君父ノ命令ヲ受ルニモ非ス然レハ神隨  
 自然ナル中心ニテ人情ノ至レル處ナリ此夫婦人情ヲ基本トシテ  
 虚飾ヲ離レ真心ニ君臣互ニ相敬愛スレハ明君良相ナリ父子互ニ  
 相敬愛スレハ慈父孝子也兄弟朋友互ニ相敬愛スレハ信義全キモ  
 ノ也又如何ナル惡人ニモセヨ此方ヨリ敬愛ヲ尽セハ假令仇敵ノ  
 如キモ遂ニ彼方ヨリモ敬愛スルヲ論ナシ萬民相互ヒニ如此スレ  
 ハ大同無爲ノ世間ト成ルヲ論ナキモノ也實ニ人情ノ基本ニシテ  
 萬業モ此ヨリ成ルヲ思ヘハ人道ノ規則也故ニ人倫ノ大道ハ夫婦  
 ヲ資テ立者ふりけりト説レタリ此ヲ以テ見レハ前ノ引出タル夫

禮始於太一云々ノ三章ハ皇國ヨリ取我ノ神等ノ宣ヘル古傳ノ遺  
 レルナルヘシ右三章ト夫婦有別ノ教トハ意義遠ヘルヤウナリ有  
 別ノ教ヲ以テモ彼土ノ風俗アシキヲ知ルヘシ此ハ猥褻ノ醜行ア  
 ルヲ教戒セルニテ男女有別ト同義ナリ此等ノ一皇國ニテハナキ  
 下ナルヲ二教渡來後ハ然ル醜行モ聞エ又ハ愛ノミニシテ禮敬ナ  
 キヨリ婦言ヲ信レテ邦家ヲ亡シ或ハ嫉妬深クシテ相争ヒ又ハ愛  
 婦ノ死ニ無常ヲ觀セリトテ僧ト成テ後嗣ヲ絶シ或ハ僧侶トシテ  
 肉食妻帯シ五戒ヲ保ツ身トシテ不淨行ナスルノ類ハ人情ノ止難  
 ナ知ラハ何ソ僧侶ト成リレヤ僧侶トナレラハ何ソ其法ヲ守ラサ  
 ルヤ又甚シキニ至テハ男女情死ノ類モ出來ル也此元來ハ猥褻醜  
 行ノ弊風ノ推及セルナリ俱ニ人道ノ基本タル處ヲ知ラス儒佛ノ  
 曲教ニ迷惑セルヨリ起レリ其虚文虚事ヲ離レ基本ノ規則ヲ以テ

七十

固有ノ大道ヲ行フヘキモノ也  
 國土之終古漂在る者か？人類ありて修り理め固め成るに依て能成  
 れる所有？而れども未能成さる所有るに依て父此を子に授け子此を  
 父に受く

此ハ此國土地球ノ實體ニ於ル天日ニ牽連セラレテ空中ニ漂在リ  
 故ニ晝夜アリ四時アリ此實體アルヨリ人類今日ノ事態ノ上モ漂  
 在テ成就シ切タト云フナシ一地球全体ノ上ニテモ六海三山一平  
 地ナレハ平地ノ外ハ未ダ成功セサル處ナリ一國一郡ノ中トテモ  
 准知スヘシ故ニ終古トハ古往今來云ハ、天地ノ有シ限リ漂在テ  
 其ヲ終古ニ人類カ修理固成スルナリ天地間ノ大ナル固成ノ功ヲ  
 成セル處モアレト未ダ成サル處六海三山モ有ト云ヘシ又人々ノ  
 家職ニ於ルモ准知スヘシ小ニ云ヘハ家職ニテ大ニ云ヘハ天地間

八十

ノ修理固成ナリ故ニ成サル處ハ父是ヲ子ニ授ケ子此ヲ父ニ受テ

修理固成スルナリ

然れば男女相嫁繼て子を生成す事としも此漂在國を修り理め固め成  
 す皇御孫命は、大御寶を貢奉る態にて皇祖天神の造化を我をして令爲  
 給ふ所なるが故に神語に顯見蒼生と宣給へり

此ハ子ヲ生成スヲ私ノコナラス我子ニシテ我子ニ非サルコト示  
 サレタリ其子ハ天皇ノ御爲ニ成長ノ後ハ此漂在ル國ヲ修理固成  
 スヘキモノニテカク子ヲ生成スハ即皇祖天神ヨリ造化ノ功用ヲ  
 人々ニ爲シメ玉フ所ニテ天皇ニ貢奉ル大御寶也故ニ伊邪那岐命  
 天照大御神ノ詔命ニモ顯見蒼生ト宣給へりトコト也顯見蒼生ト  
 ハ可愛人民ト詔フ義也  
 天下の人民を大御寶としも云事ハ歴世の宣命より多く有る事なるが言

九十

義ハ天下ノ人民ヲ右レ如ク此漂在る國土を修り理め固め成その徳有て衣食住の事を整へて世間を融通し相共ニ各々其々の職業を以て皇祖天神の賦命を奉り朝廷ニ仕奉る有用ト人民なるが故ニ稱ひる所なり凡大御寶の較略四等あり士なり農あり工なり商あり此を四民と云ふ各々職有て相混ざまじき者なり其務る業は其々異なるが故ニ集大成て此漂在國を修り理め固め成す事ありて右の四民を凡て大御寶と云ふ所以なり

此ハ人民ヲ大御寶ト云義ノ大切ノ緣故ナリ○歴世の宣命トハ御代々ノ天皇ノ勅言ト云フ也天下ノ人民此漂在ル國ヲ修理固成ノ爲ニ各々其家業トアル衣食住ノヲ整へ世間ニ融通スルハ即皇祖天神ノ賦命トテ面々胎中ニアル時仰付ラレテ受テアル其御命令通りノ職業ヲ勤ルカ即朝廷へ仕奉ル義也如此仕奉レハ朝廷ノ

御用ヲ勤ルフ故朝廷ニモ御入用ノ人民ナリ故ニ大御寶トテ寶ノ第一ニ成置ルヨリ如此稱スルヲナリ士人ノ公用ヲ勤ルモ農工商各々其職業ヲ勤ルモ賦命ノ上ニハ二ツナク朝廷ノ御用ノ上ニモ二ツナク皆同事ナリ然レハ面々一自分ノ家業渡世私用ト心得等閑ルヘキモノニハ非ス此ヲ等閑ニ心得レハ皇祖天神ノ賦命ニモ違背レ朝廷ノ御用ヲモ欠クワケナレハ一生幸ハナキモノナリ  
 借四民ト申ス中農人ナクンハ上ハ皇候ヨリ萬民ニ至ル迄何ヲ以テ今日性命ヲ全クスヘケンヤ工匠ナクンハ何ヲ以テ雨露風雪ヲ凌クヘケンヤ又商賈ナクンハ有用ノ物何ヲ以テ天下ニ融通スヘケンヤ如此一ツトレテ欠ヘカラヌ中ニモ今日ノ急務ハ食ニアレハ三民ノ中農人ハ別テ大御寶ナルヲモ大切ナルモノナルヲモ辨フヘレ然ルニ近世上下トナク利慾ニ引ル世ト成行テ金銀ヲ重

スルヲ米穀ヨリ甚シクナリ來ツレハ町人商人ノ金銀ヲ持ルモノ  
 ニ引連テ小商スル者迄モ自然ト農作人ヲ蔑如スル体ニナリ町人  
 百姓ト次第セルヤウニ成タリ此ハ本末ノ取違ト云ヘシ何ニヨラ  
 ス本末ノ取違ハ亂ノ基ナリ又當今御料ノ民ト候領ノ民ト格別差  
 等有ルヤウニ心得違ヒ御料ニテハ天領天民也ト高フリナルハ以  
 ノ外ナルヲナリ所謂普天ノ下率土ノ濱皆天皇ノ物ナルヲハ皇孫  
 命御天降ノ時天照大御神ヨリノ詔命也然レハ天下ノ國皆天領ニ  
 テ天下ノ人民悉天民也天領天民トハ天皇ノ領天皇ノ民ト申ス義  
 也此ヲ以テ御料候領ノ人民ニハ差等ナキヲ知ルヘシ四民ノ中  
 士ハ分格ヲ以テ立ルモノナレハ別段ノ工農工商ノ三民ハ其部類  
 々々ニテ年老ヲ以テ上等トシ次第ヲ定ムヘキヲナリ倍此農工商  
 ナ取總テ處置スルハ士ノ職業也此ハ億兆ノ人民ヲ天皇御直ノ御

差配モ出來ヌ故國々所々ニ處置人ナクテハ萬民ノ心得違ナル者  
 各職業ヲ怠リテ皇祖天神ノ賦命ニ背キ隨テ天皇ノ御用モ欠レハ  
 職業ヲ勤守サスヘキ爲又萬民勢ノ強弱ニヨリ互ニ相凌キ相争フ  
 者ナレハ此ヲ裁判スル爲ノ御手代人ヲ士ト云ナリ此士ニハ多分  
 ノ等級アリ天皇ヨリ見下シ玉ヘハ三公九卿將軍諸侯皆士ノ部也  
 又大御寶ノ三民ヨリ見上レハ里正邑長以上皆士ノ部也如何トナ  
 レハ天皇ノ御心ヲ心トシテ三公九卿將軍諸侯ヨリ以下家老年寄  
 郡代奉行邑長里正ト次序シテ命令ヲ三民ニ下シ指揮スル故也サ  
 テ此四民各其家職ヲ以テ互ニ相輔相保テ勤守スルハ即集大成ニ  
 テ畢竟漂在國テ修理固成スル功此中ニアリテ皇祖天神ノ賦命ヲ  
 奉リ朝廷ニ奉仕ナレハ實ニ大御寶ト申ス謂レテ知ヘシトソ  
 又神語マタカミコトト顯見蒼生アキラカニミヤコトト云る也天下ノ人類ヒトノミヤコトト貴賤賢愚タカクサカクサノ等差有アリ一概イツバツ

よ云べららざとせども皇祖天神の本源より云ふ時ハ共ふ該羅<sup>カエ</sup>て身<sup>み</sup>体<sup>たい</sup>を皇祖天神の産<sup>う</sup>靈<sup>りやう</sup>し給<sup>たま</sup>ふ身<sup>み</sup>體<sup>たい</sup>靈<sup>りやう</sup>性<sup>せい</sup>は皇祖天神の配<sup>たい</sup>賦<sup>ふ</sup>と給<sup>たま</sup>へる靈<sup>りやう</sup>性<sup>せい</sup>にして身<sup>み</sup>心<sup>しん</sup>共<sup>とも</sup>有<sup>あ</sup>り我<sup>わが</sup>有<sup>あ</sup>るにして我<sup>わが</sup>有<sup>あ</sup>るは皇祖天神の我<sup>わが</sup>一<sup>いつ</sup>假<sup>かり</sup>して字<sup>あざな</sup>と給<sup>たま</sup>ふ所の物<sup>もの</sup>よて其<sup>その</sup>歸<sup>かへ</sup>る所<sup>ところ</sup>は此<sup>この</sup>漂<sup>たふ</sup>在<sup>あ</sup>る國<sup>くに</sup>改<sup>か</sup>修<sup>しゆ</sup>り理<sup>り</sup>を固<sup>か</sup>め成<sup>な</sup>すへき大<sup>おほ</sup>任<sup>にん</sup>を授<sup>ま</sup>依<sup>い</sup>せ給<sup>たま</sup>ふ故<sup>ゆゑ</sup>は愛<sup>あい</sup>しき青<sup>あお</sup>人<sup>ひと</sup>草<sup>くさ</sup>と深<sup>ふか</sup>く慈<sup>あま</sup>愛<sup>い</sup>しみ給<sup>たま</sup>ふ所<sup>ところ</sup>なり

此ハ顯見蒼生ノ義ヲ説レタリ抑人ト云モノハ皇祖天神即産靈神ノ御靈ニヨリテ身体成リ靈性具足ス故ニ我モノニテ我モノナラス皇祖天神ノ有也皇祖天神ノ御靈ヲ分ケテ我ニ賦與玉フテ假リニ字シテトハ名付テ人ト稱フ義也如此爲玉フ故ハ漂在ル國ヲ修理固成スヘキ大役ヲ任シ給フ故ニ愛レキ青人草ト可愛クフヒンニ思召ストノ義也然レバ我身ナカラモ皇祖天神ノ有ナレバ天神ノ御心ヲ心トシ又身モ心モ放埒ニセス大切ニ保護シ神隨ノ大道

ヲ事過タス履行ヒ其家職ヲ修理固成シテ神ニモ君ニモ奉仕スヘキモノナリ師ノ歌ニ皇産靈の神の御靈一成せざる身を速なき數一思ひ棄めやト詠レタルハ此義ヲ示サレタルニテ甚尊キナリ倍皇祖天神ノ配賦シ玉フ靈性ナラハ賢愚ハ有マシキ筈ノ不審アラメト此ハ前ニ註シ神道ノ至大ナル故ナリ勿論愚ナケレハ賢ト云モナシ賢ナケレハ貴ト云モナシ神隨ナル神道ハ剛ニシテ柔柔ニシテ剛屈ニシテ伸伸ニシテ屈貴ニシテ賤賤ニシテ貴賢ニシテ愚愚ニシテ賢也然レハ各々稟賦ノ靈性ヲ靈性トシテ修理固成ノ功ヲ成サハ愚必愚ナラス賤必ス賤ナラス又靈性ヲ靈性トセス欲ノマヽニ修理固成ノ功ヲ成サスハ賢必ス賢ナラス貴必ス貴ナラス故ニ貴ニシテ賤賤ニシテ賢ニシテ愚愚ニシテ賢トハ云也心ヲ潜メテ考フヘシ此ヲ以テ神道ノ至大無究ナルヲ知ヘレ此故ニ貴賤賢愚ノ等差有

ルモ一概ニ云ヘカラサルノ師説アリ

